

第2次健康プラン芦別

中間評価



令和2年2月
北海道 芦別市

目次

第1章 中間評価にあたって

- 1 計画策定の趣旨…………… P1
- 2 計画の位置づけ…………… P3
- 3 計画の期間の変更…………… P3
- 4 計画の対象…………… P3

第2章 芦別市の概況と特徴

- 1 健康に関する概況…………… P4

第3章 課題別の実態と対策、目標の設定

- 1 中間評価…………… P6
- 2 生活習慣病の予防
 - (1) がん…………… P8
 - (2) 循環器疾患…………… P9
 - (3) 糖尿病…………… P11
- 3 生活習慣・社会環境の改善
 - (1) 栄養・食生活…………… P12
 - (2) 身体活動・運動…………… P13
 - (3) 飲酒…………… P14
 - (4) 禁煙・受動喫煙…………… P15
 - (5) 休養…………… P16
 - (6) 歯と口の健康…………… P17
- 4 ところの健康…………… P18

第4章 計画の推進

- 1 健康増進に向けた取り組みの推進…………… P19
- 2 健康増進を担う人材の確保と資質の向上…………… P20



1

1 2

2 1

2 5

4

2 1

2 1

3

5

1 0

5 3

2 7

2

2 7

4

8

5



N C D

C O P D

N C D

NCD Non Communcable Disease

N C D

W H O

N C D

N C D

W H O

N C D

N C D

2

		2
		2
		2

3

3 0

5

4

第3章 課題別の実態と対策、目標の設定

1 中間評価

1 中間評価の概要

本市では、第2次健康プランを平成27年8月に策定し、この計画に基づき目標達成に向けて様々な取り組みをしてきました。このたびの中間評価では、健康状況や社会情勢の変化・計画の進捗状況に応じた計画の見直しを行い、最終年度の目標達成に向けて今後の施策に反映させるとともに、健康に暮らせる社会を目指します。

2 目標の達成状況

既存の保健統計資料や健診（検診）データの収集を実施し、現状を計画策定時と比較して目標の達成状況の把握を行いました。（表2）

10領域ごとに目標値を設定していることから、今回は把握した現状分析の結果を踏まえて、計画策定時の目標値と中間評価値を5段階の基準で比較しました。その結果10領域40項目の指標については、「目標に達した」は14項目（35.0%）、「改善傾向」は7項目（17.5%）、「変化なし」は2項目（5.0%）、「悪化傾向」は17項目（42.5%）となっています。

評価区分		該当項目数（割合）
A	目標値に達した	14項目（35.0%）
B	目標値に達していないが改善傾向にある	7項目（17.5%）
C	変わらない	2項目（5.0%）
D	悪化している	17項目（42.5%）
合 計		40項目（100.0%）

3 目標設定の考え方

- ①科学的根拠に基づいた実態把握が可能な目標を設定
 - ②実行可能性のある目標を設定
 - ③既存データの活用により、自治体自ら進行管理できる目標を設定
- ①～③を踏まえて、本市の目標を設定



			105.4		89.1		109.0		D	100.0
		\$ & ! &			21.0%		8.5%		D	13.5%
		\$ + ! #			23.0%		6.3%		D	11.3%
		\$ ' ! %			28.0%		6.4%		D	11.4%
		% # ! (!			36.1%		10.6%	& #	D	15.6%
		\$ + ! %			41.0%		13.5%		D	18.5%
		%(! ,			48.0%		50.0%			
							7.8%			12.8%
			26.1		20.0		50.4		D	50.0
			30.3	% %	30.0	(41.9	% *	D	40.0
			27.7%		20.0%		29.0%		D	27.0%
		\$ % ! (% ' ,	\$ # ! #		\$ \$! *	& #	B	10.0%
		\$) ! ,			\$ % ! #		\$ * ! *		D	17.0%
		, * \$ (! *			% (~		& * ! %		D	% # % (
		\$ # + \$ * ! (% #	% (~	% ,	% + !)	% ,	A	% # % (
			23.6%		60%		32.4%		B	60.0%
			62.8%		60%	% ,	66.3%	& #	A	70.0%
				% #	\$! (# ! +	& # %)	A	# ! +
			40.4%		50.0%		67.1%		A	70.0%
			1.5%		1.0%		1.2%	& #	B	1.0%
			12.7%		10.0%		9.9%		A	9.5%
			64.9%	% ,	75%		68.2%	& #	B	20.0%
		' % ! #			& #		37.2%	& #	B	30.0%
		% * ! ' ,		% ' ,	% #		32.8%	& #	D	24.0%
		\$ + ! ,		% ,	30%		16.5%	& #	A	15.0%
		' * ! %			(% ! #		& & ! &		D	40.0%
		' & ! &			' + ! #		% \$! *		D	40.0%
) # ! *) ! #		& \$! ,	& #	D	40.0%
		(\$! ((* ! #		& , ! #		D	40.0%
		+ ! &			\$ & ! #		% % ! ,		A	25.0%
		\$ \$! *			\$ * ! #		\$ \$! *		C	15.0%
		\$ # ! (\$) ! #		\$) ! (A	20.0%
		\$ ' ! \$			\$, ! #		% , !)		A	30.0%
		\$ \$! *			\$ * ! #		& \$! &		A	35.0%
		\$ % !)			\$ + ! #		& # ! *		A	33.0%
		% ' ! &			\$, ! #		\$ \$!)	& #	A	10.0%
		%(! ,			% \$! #		, ! *		A	9.0%
			18.3%		12.0%		18.4%		D	16.0%
			21.8%		19.0%		23.3%		D	19.0%
			77.6%	% &	85%		87.5%	& #	A	90.0%
		% ! #		% ,	\$! #		% ! #	% ,	C	\$! #
		(! +		% +	% # - ' !)		(! #	% &	B	fi % + & %
					% # -		35.7%	& #	B	21.8%

\$

% #

% #

3 生活習慣・社会環境の改善

(1) 栄養・食生活

【現状と課題】

本市の20歳代女性（妊娠届出時）のやせの者の割合は27.3%（北海道：32.0% 全国：21.7%）で全国を上回り、北海道と比較すると低くなっていますが、策定時以降増加傾向となっています。

肥満者の割合は成人男性37.2%（北海道：39.6% 全国：29.5%）、成人女性32.8%（北海道：26.7% 全国：19.2%）と男女とも全国よりは高い傾向です。策定時以降男性は減少傾向、女性は増加傾向となっています。

低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合は男女合わせて16.5%（全国：16.7%）となっています。策定時以降減少傾向となっています。

生活習慣病の発症予防・重症化予防には、適正体重の維持が重要です。今後も適正体重を維持できるよう食に関する正しい知識を選択する能力や食習慣を身につけ、年齢や健康状態に応じた食生活を市民自ら実践できるよう取り組みが必要です。

【今後の目標と対策】

目標	計画策定時	現状値	目標値	国の現状値	★
①適正体重を維持している者の増加(肥満、やせの減少)					
20歳代女性のやせの者の減少 (妊娠届出時のやせの者の割合) 注1	21.6%	27.3%	20.0%	21.7%	①
40～60歳代の男性と女性の肥満者の割合の減少	男性37.2%	男性37.2%	男性30.0%	男性29.5%	
	女性32.8%	女性32.8%	女性24.0%	女性19.2%	
低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者割合の減少	男女18.9%	男女16.5%	男女15.0%	男女16.7%	

★国のデータソース：①国民健康・栄養調査

※注1：国及び北海道の健康増進計画と整合性を図るため、計画策定時の指標「20歳代女性の適正体重の増加」から「20歳代女性のやせの者の減少」に変更する。

ライフステージに対応した栄養指導、相談、支援の実施及び食育の推進

- 1 プレマクラス、個別妊婦健康相談（妊娠期）
- 2 乳幼児健康診査・健康相談（乳幼児期）
- 3 地区組織活動の支援（芦別市食生活改善協議会）
- 4 特定健康診査結果に基づいた個別栄養指導、栄養相談（壮・中年期、高齢期）
- 5 家庭訪問・健康教育・健康相談（全てのライフステージ）
- 6 食育に関する事業の推進、展開



% #) '

 ' * ! % & & ! & ' & ! % % \$! %) (

 & \$! , (\$! (& , ! #

 % #) ' + ! & % % ! ,

 \$ \$! *) (\$ ' ! \$

 % , !) \$ \$! * & \$! &

(6) 歯と口の健康

【現状と課題】

本市の3歳児で虫歯のない者の割合は、77.6%から87.5%と増加し、また、12歳児の一人平均虫歯数は、2.0本以下を維持しています。

歯の健康を保ち自分の歯で食べ続けることは、生涯を通じた心身の健康や生活の質の維持、向上に大切な役割を果たしています。高齢になっても食べる機能を維持するため、歯を失う原因となる虫歯を予防するため、乳幼児期、学齢期からの虫歯予防を進めていくことが重要です。

今後も乳幼児健診、健康相談時、健康教育等の機会を活用して、保護者に対して歯の健康づくりに必要な情報提供や保健指導を実施し、定期的なフッ素塗布を勧奨するとともに、保育所・幼稚園、小・中学校でのフッ化物洗口を継続し、虫歯予防の取り組みを進める必要があります。

【今後の目標と対策】

目標	計画策定時	現状値		目標値		国の現状値		★
①3歳児で虫歯がない子の割合の増加	77.6%	87.5%	平成30年度	90%	令和5年度	84.2%	平成28年度	①
②12歳児の一人平均虫歯数の減少	2.0本以下	2.0本以下	平成29年度	1.0本以下		0.74本	平成30年度	②

★国のデータソース：①地域保健・健康推進事業報告3歳児健康診査結果（厚生労働省） ②学校保健統計調査（文部科学省）

- 1 1歳6か月児健診、3歳児健診時における歯科保健指導の実施
- 2 定期的なフッ素塗布の勧奨
- 3 フッ化物洗口の実施（保育所・幼稚園の年中・年長児、小・中学生）

						/	/	/
	/	35.7%		21.8%		16.5%		

1 健康増進に向けた取り組みの推進

(1) 活動展開の視点

健康増進法は、第2条において各個人が生活習慣病への関心と理解を深め、自らの健康状態を自覚して、生涯にわたって健康増進に努めなければならないことを、国民の「責務」とし、第8条において自治体はその取り組みを支援するものとして、計画化への努力を義務づけています。

市民の健康増進を図ることは、急速に高齢化が進む本市にとっても、一人ひとりの市民にとっても重要な課題です。

取り組みを進めるための基本は、個人の身体（健診結果）をよく見ていくことです。

一人ひとりの身体は、今まで生きてきた歴史や社会背景、本人の価値観によって作り上げられてきているため、それぞれの身体の問題解決は画一的なものではありません。

一人ひとりの、生活の状態や、能力、ライフステージに応じた主体的な取り組みを重視して、健康増進を図ることが基本になります。

市としては、その活動を支えながら、個人の理解や考え方が深まり、確かな自己管理能力が身につくために、科学的な支援を積極的に進めます。

同時に、個人の生活習慣や価値観の形成の背景となる、ともに生活を営む家族や、地域の習慣や特徴など、共通性の実態把握にも努めながら、地域の健康課題に対し、市民が協力して取り組みを考えあうことによって、個々の気づきが深まり、健康実現に向かう地域づくりができる、地域活動をめざします。

(2) 関係機関との連携

ライフステージに応じた健康増進の取り組みを進めるに当たっては、事業の効率的な実施を図る観点から、関係機関との連携が必要です。本市における健康増進事業は、様々な部署にわたるため、庁内関係各課との連携を図ります。

また、市民の生涯を通じた健康の実現を目指し、市民一人ひとりの主体的な健康づくり活動を支援していくために、医師会などとも十分に連携を図りながら、関係機関、関係団体等と協働して進めていきます。

2

健康増進を担う人材の確保と資質の向上

保健師、管理栄養士等は、ライフステージに応じた健康増進を推進していくために、健康状態を見る上で最も基本的データである、健診データを見続けていく存在です。

健診データは生活習慣の現れですが、その生活習慣は個人のみで作られるのではなく、社会の最小単位である家族の生活習慣や、その家族が生活している地域などの社会的条件のなかでつくられていきます。

地域の生活背景も含めた健康実態と特徴を明確化し、地域特有の文化や食生活と関連付けた解決可能な健康課題を抽出し、市民の健康増進に関する施策を推進するためには、地区担当制による保健指導等の健康増進事業の実施が必要になります。

今後も健康改善の可能性や経済的効率を考えながら優先順位を決定し、業務を取り進めていくために、保健師等の年齢構成に配慮した退職者の補充や、配置の検討を進めていきます。

また、健康増進に関する施策を推進するためには、資質の向上が不可欠です。

保健師や管理栄養士等の専門職は、最新の科学的知見に基づく研修や学習会に、積極的に参加し自己研鑽に努め、効果的な保健活動が展開できるよう資質の向上に努めます。

